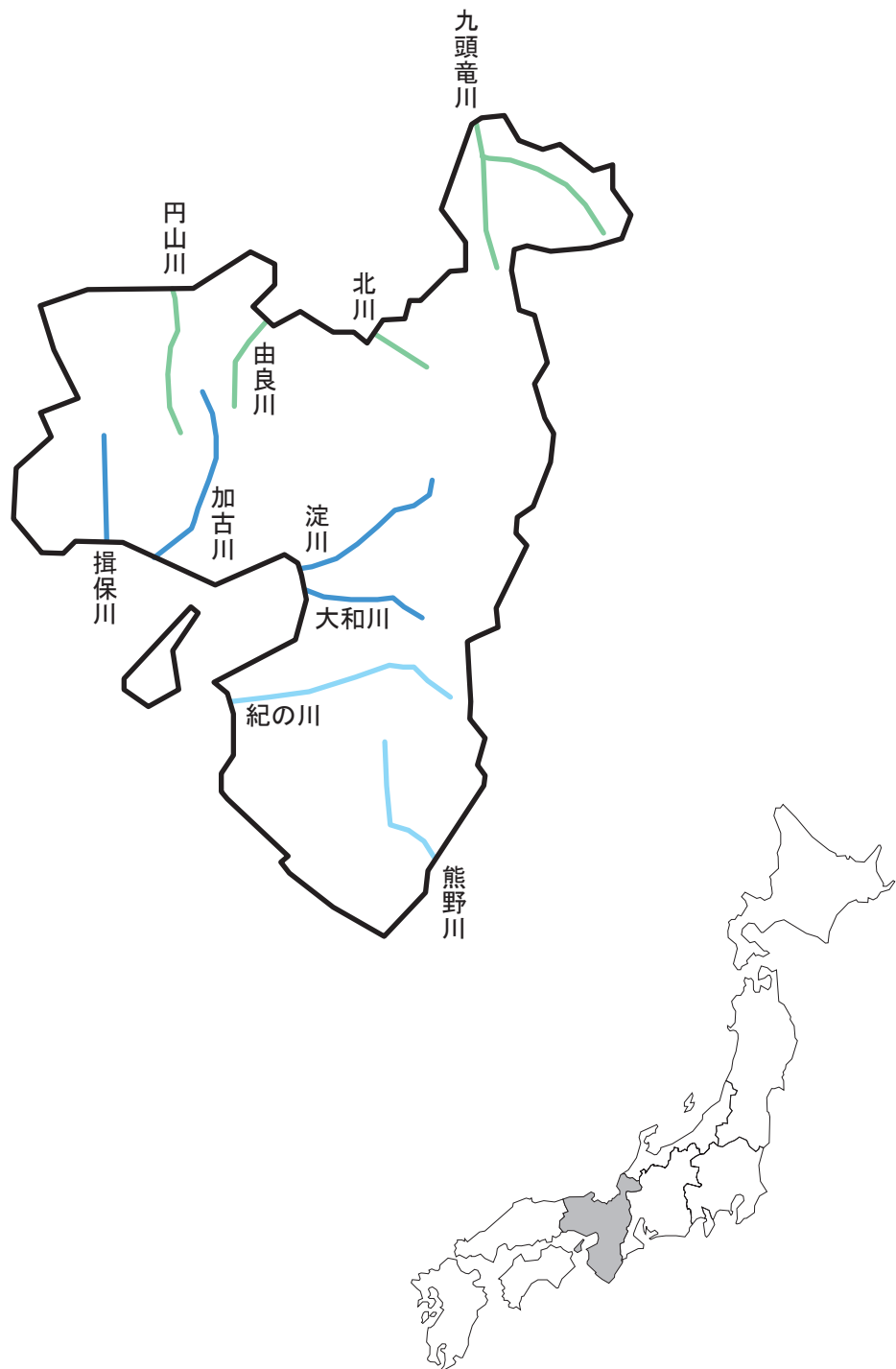


近畿





福知山河川国道事務所 撮影



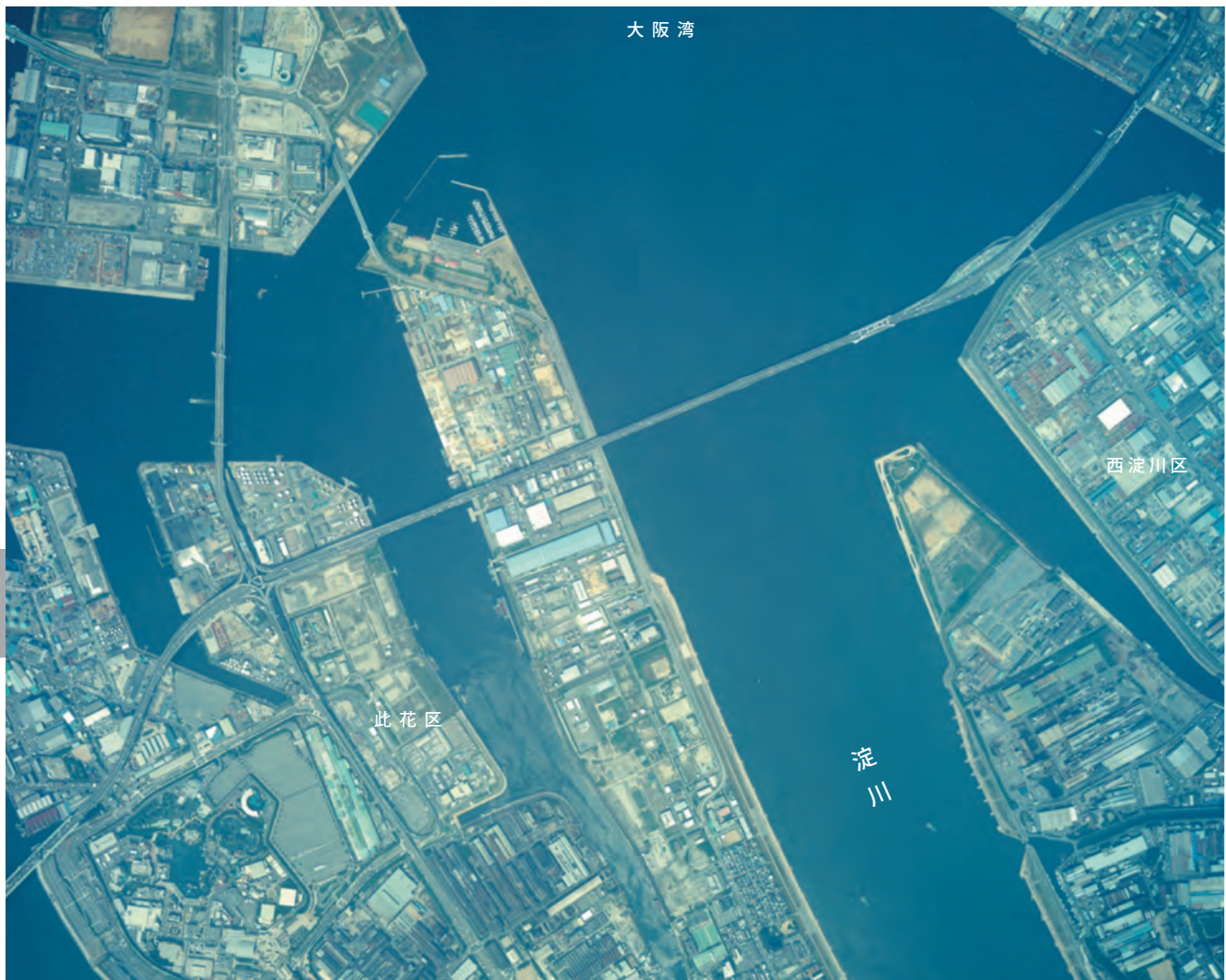
1963年7月撮影

近畿

由良川（ゆらがわ）は、流域面積 1,880km²、幹線流路延長 146km を有する。三京都・滋賀・福井の府県境にある国岳（標高 959m）に源を発し、南丹市から西流。途中綾部市などを流れ、福知山市で徐々に北東へと流れを転じ、舞鶴市と宮津市の市境において日本海に注いでいる。河口の宮津市由良は、かつては由良川水運の港として栄え、森鴎外の『山椒太夫』のモデルになったといわれる。河口近くで北近畿タンゴ鉄道（KTR）宮津線が渡河する。

淀川 60

近畿



国土地理院 撮影 (2006年)



1964年6月撮影

淀川（よどがわ）は、流域面積8,240km²、幹線流路延長75km²を有する。日本最大の湖「琵琶湖」に源を発し、上流部では瀬田川、中流部では宇治川と呼ばれ、京都府、大阪府境界付近で桂川、木津川と合流した後は淀川となり、大阪市をはじめとする近畿圏の中心部を貫き大阪湾に注いでいる。河口部左岸は埋立てが進み、工場用地、コンビナート等の土地利用が活発である。



大和川河川事務所 撮影



1964年5月撮影

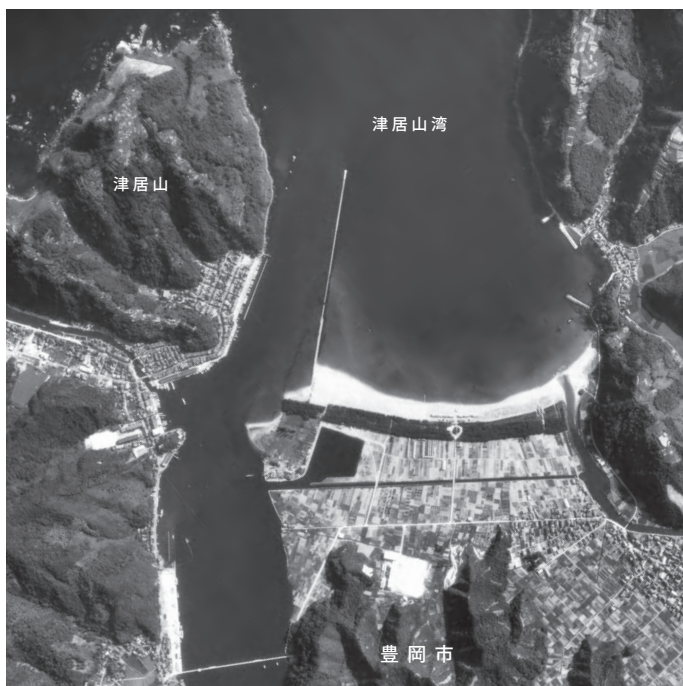
大和川（やまとがわ）は、流域面積 1,070km²、幹線流路延長 68km を有する。奈良県桜井市の北東部、貝ヶ平山（かいがひらやま、標高 822m）近辺に源を発し、上流部では初瀬川と称され、奈良盆地を西に向かって流れつつ、佐保川、曾我川、葛城川、高田川、竜田川、富雄川など盆地内の大半の河川を生駒山系の手前までに合わせる。生駒山系と葛城山系の間を抜けて、大阪平野に出ると柏原市で南河内を流れてきた石川と合流して真直ぐ西へと流れ、大阪市と堺市の間で大阪湾に注いでいる。河口部は埋め立てが進み、工場用地、コンビナート等の土地利用が活発である。

円山川 62

近畿



豊岡河川国道事務所 撮影



1964年8月撮影

円山川（まるやまがわ）は、流域面積1,305km²、幹線流路延長68kmを有する。兵庫県中部、旧播磨国の境界近く、朝来市生野町円山（標高641.1m）に源を発し、途中に大屋川、八木川、稲葉川、出石川および奈佐川等の95支川を合わせて但馬の中央部を北流して津居山湾で日本海に注いでいる。



姫路河川国道事務所 撮影



1961年6月撮影

加古川（かこがわ）は、流域面積1,730km²、幹線流路延長96kmを有する。兵庫県中部、但馬国と丹波国、播磨国三国が境を接する丹波市青垣町の粟鹿山（標高962m）付近に源を発し、途中篠山川、杉原川、東条川、万願寺川、美囊川等を合わせながら滝野町、小野市、加古川市等を貫流し加古市と高砂市の境で瀬戸内海播磨灘に注いでいる。

揖保川 64

近畿



姫路河川国道事務所 撮影



1961年5月撮影

揖保川（いぼがわ）は、流域面積810km²、幹線流路延長70kmを有する。兵庫県宍粟市の藤無山（標高1,139m）に源を発し、途中引原川、栗栖川、林田川等を合わせながら山崎町、新宮町、龍野市等を貫流し河口付近で中川を分脈して三角洲を形成し、姫路市網干区で瀬戸内海播磨灘に注いでいる。河口部右岸は、工場、コンビニート等の土地利用が進んでいる。



和歌山河川国道事務所 撮影



1961年11月撮影

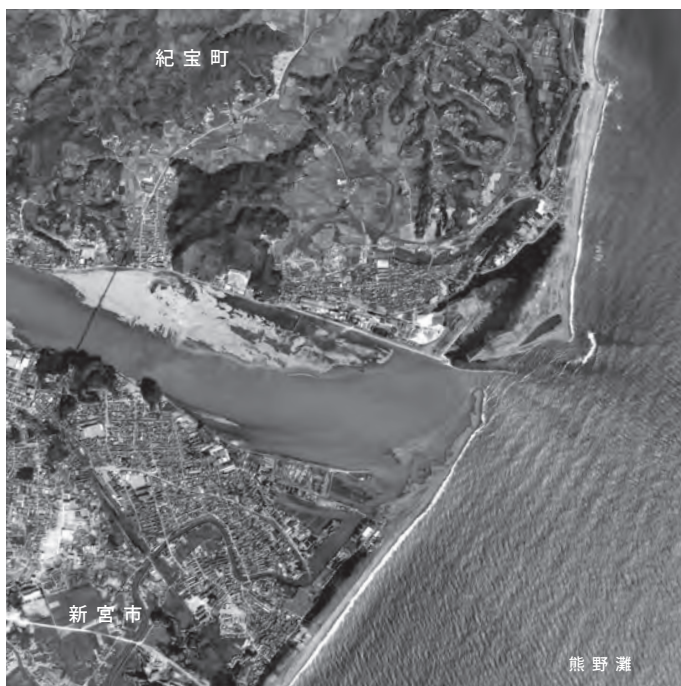
紀の川（きのかわ）は、流域面積 1,750km²、幹線流路延長 136km を有する。奈良県と三重県との県境にある大台ヶ原に源を発し、奈良県五條市付近からは中央構造線の南側を和泉山脈を右に見てほぼ真直ぐ西流し、和歌山市で紀伊水道に注いでいる。河口部左岸は導流堤を隔て和歌山港が位置する。

熊野川 66

近畿



紀南河川国道事務所 撮影

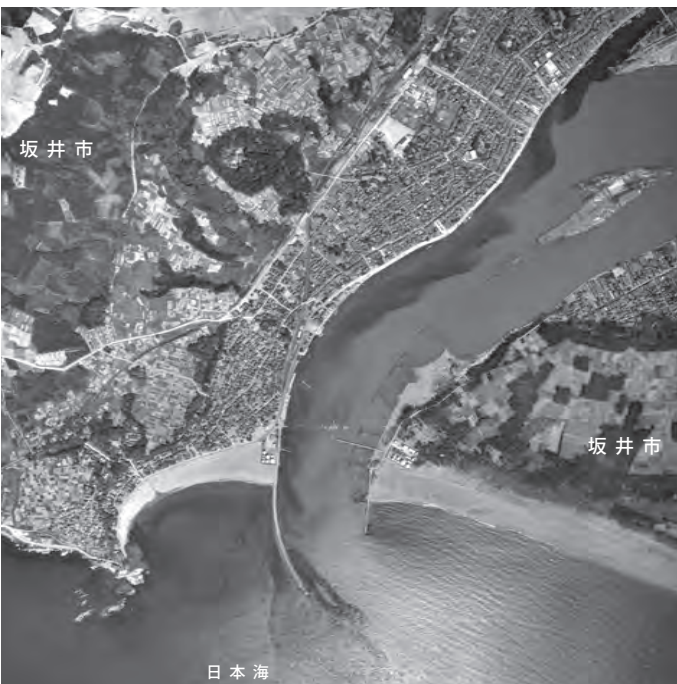


1966年9月撮影

熊野川（くまのがわ）は、流域面積2,360km²、幹線流路延長183kmを有する。1970年に一級河川の指定を受けた当初は新宮川（しんぐうがわ）であったが、地元では熊野川の呼称が定着しており、変更の要望が多かったため1998年4月9日、法定名称が熊野川と変更された。水系名は新宮川水系のままである。大峰山脈の雄峰である山上ヶ岳、稲村ヶ岳、大普賢岳の間に源を発し、奈良県内では十津川（とつかわ）と呼ばれる。五條市、十津川村などを南流し、本宮町萩で三越川を合流後、大日山、七越峯、富士根山、如法山等の山間を貫け、途中、大台ヶ原を水源とする北山川と合流、しばらく三重県との県境に沿って流れ、新宮市、紀宝町で熊野灘に注いでいる。



福井河川国道事務所 撮影 (2001年)



坂井市

坂井市

日本海

1962年5月撮影

近畿

九頭竜川(くづりゅうがわ)は、流域面積2,930km²、幹線流路延長116kmを有する。福井県と岐阜県の県境にある油坂峠(717m)に源を発し、九頭竜ダムを経て、大野盆地、勝山盆地を北西に進み、大野市と勝山市との境付近で左支川真名川を合わせ、永平寺町鳴鹿にて福井平野に入り、そこから西流し、福井市高屋において左支川日野川と合流し、流れを北西に転じ、坂井市三国町で日本海に注いでいる。河口部左岸には福井火力発電所が位置する。

北川 68

近畿



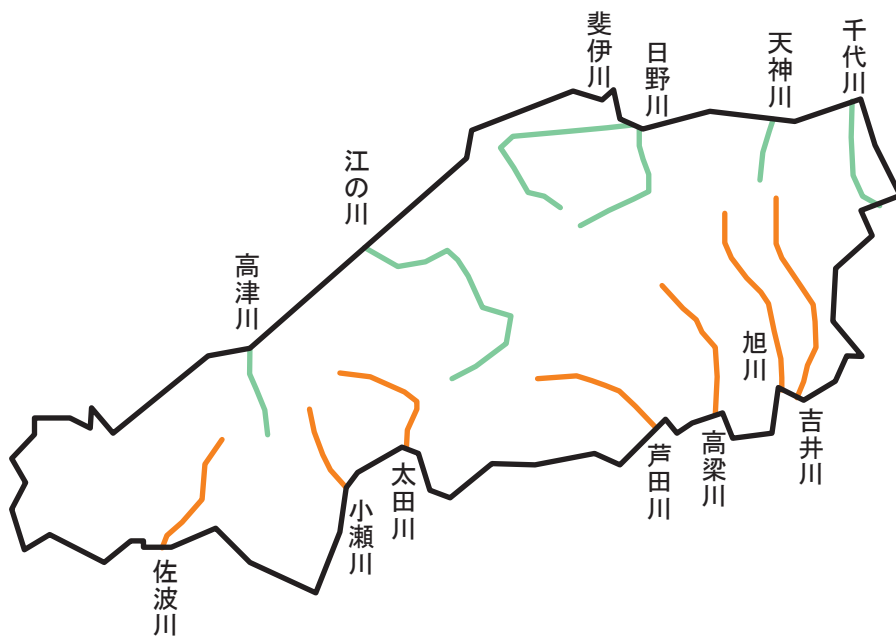
福井河川国道事務所 撮影



1963年5月撮影

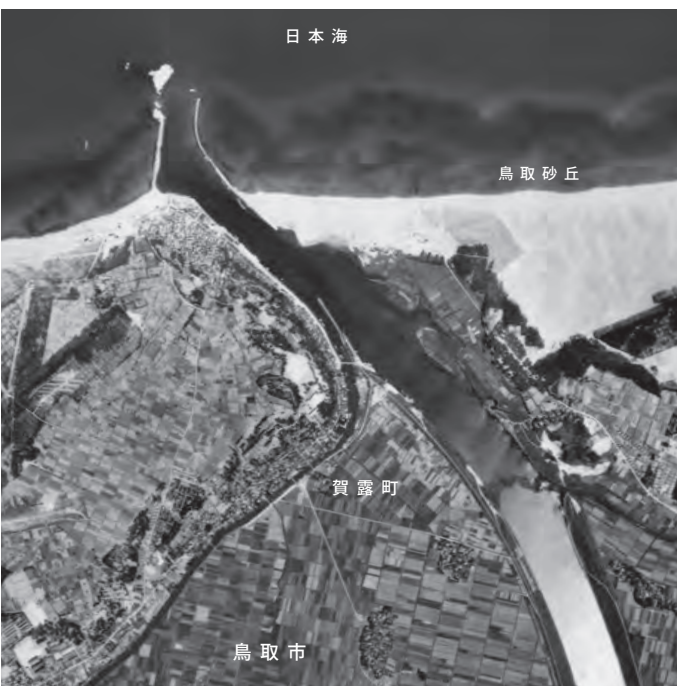
北川(きたがわ)は、流域面積211km²、幹線流路延長30kmを有する。滋賀県と福井県との境をなす野坂山地の三十三間山の東麓に源を発し、三重岳、武奈岳にさえぎられた滋賀県今津町の山間部を南流して、県境付近において左支川の寒風川(さむかぜがわ)を合わせ、流路を北西に転じ、若狭町にて右支川鳥羽川を、さらに小浜市東小浜にて左支川遠敷川(おにゅうがわ)を合わせ、福井県小浜市街地の小浜市城内と小浜市雲浜の境界から若狭湾に注いでいる。

中国





鳥取河川国道事務所 撮影



1964年5月撮影

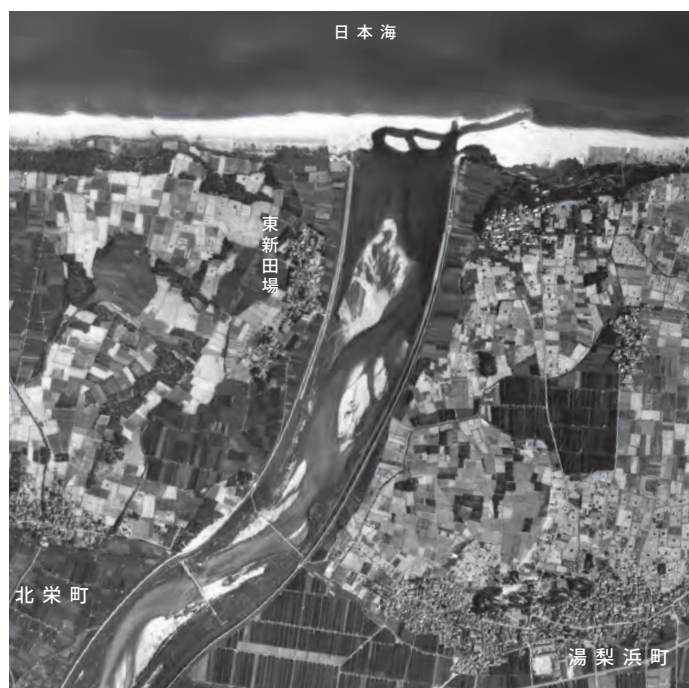
千代川（せんだいがわ）は、流域面積 1,190km²、幹線流路延長 52km を有する。鳥取県八頭郡智頭町の沖の山に源を発し、途中多くの支川を合わせながら北流し鳥取市で日本海に注いでいる。河口部左岸に鳥取港、右岸に鳥取砂丘が広がる。河口付近の河道は、以前は西側の鳥取港の位置を流れていたが、河口上流 4 km 区間の大きく湾曲していた河道は洪水対策事業に伴い、現在の位置に付け替えられた。

天神川 70

中
国



倉吉河川国道事務所 撮影 (2006年)



1962年5月撮影

天神川（てんじんがわ）は、流域面積 490km²、幹線流路延長 32km を有する。鳥取県東伯郡三朝町の津黒山（標高 1,118 m）に源を発し、福本川、加谷川、三徳川の小支川を合わせて北流し、倉吉市を経て、東伯郡湯梨浜町および北栄町で日本海に注いでいる。



日野川河川事務所 撮影 (2003年)



1962年5月撮影

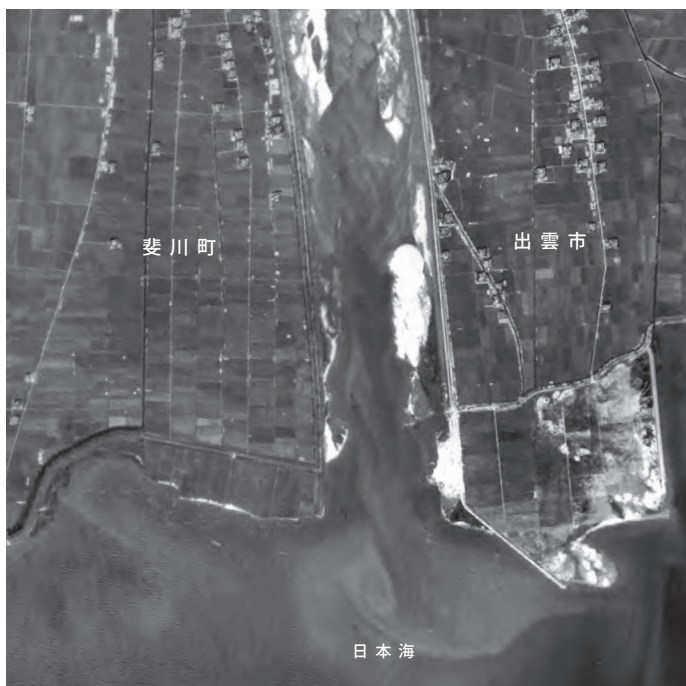
日野川（ひのがわ）は、流域面積870km²、幹線流路延長77kmを有する。鳥取県日野郡日南町の三国山（標高1,004m）に源を発し、東北東に向かって流れる。途中多くの溪流を合わせながら大山の麓にある江府町からは北北西に流路を変え、米子市および日吉津村の中心を北に流下し、西伯郡日吉津村で日本海に注いでいる。

斐伊川 72



出雲河川事務所 撮影 (2006年)

中
国



1962年6月撮影

斐伊川（ひいかわ）は、流域面積2,070km²、幹線流路延長153kmを有する。島根県仁多郡奥出雲町の船通山に源を発し、途中、大馬木川、阿井川、久野川、三刀屋川、赤川等の支川を合わせながら北流し、出雲平野で流れを東に転じ、宍道湖、大橋川、中海を経て、鳥取県境港市および島根県松江市の境界から日本海に注いでいる。



浜田河川国道事務所 撮影 (2003年)



江津市

日本海

江津市

1964年10月撮影

江の川（ごうのかわ）は、流域面積 3,900km²、幹線流路延長 194km を有する。広島県山県郡北広島町の阿佐山に源を発し、本流は可愛川（えのかわ）と呼ばれる。途中多くの小支川を合わせながら盆地を北東に流れ、安芸高田市で八千代湖を経て、北部の三次市で同規模の馬洗川、西城川を三方向より合わせて西流し、河口まで中国山地をまたぎ、島根県江津市で日本海に注いでいる。

高津川 74

中
国



浜田河川国道事務所 撮影 (2003年)



1964年10月撮影

高津川（たかつがわ）は、流域面積1,090km²、幹線流路延長81kmを有する。山口県、島根県境に連なる中国山地に位置する島根県鹿足郡六日市町田野原に源を発し、北に流下しながら六日市町、柿木村、日原町を経て、益田市横田において本水系最大の支川匹見川を合わせ益田市を貫流し日本海に注いでいる。



国土地理院 撮影 (1995 年)



1961 年 7 月撮影

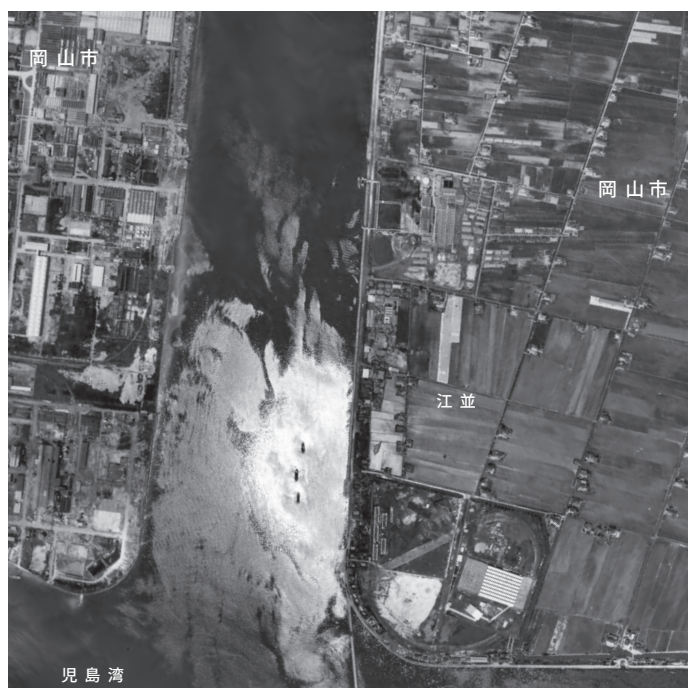
吉井川（よしいがわ）は、流域面積 2,110km²、幹線流路延長 133km を有する。岡山県苫田郡鏡野町の三国山（標高 1,252 m）に源を発し、津山市の市街地を東へよぎった後再び南流する。途中加茂川、吉野川、金剛川等を合流して和気町で南西流へと転じ、岡山市東部西大寺で児島湾に注いでいる。

旭川 76



岡山河川事務所 撮影

中
国

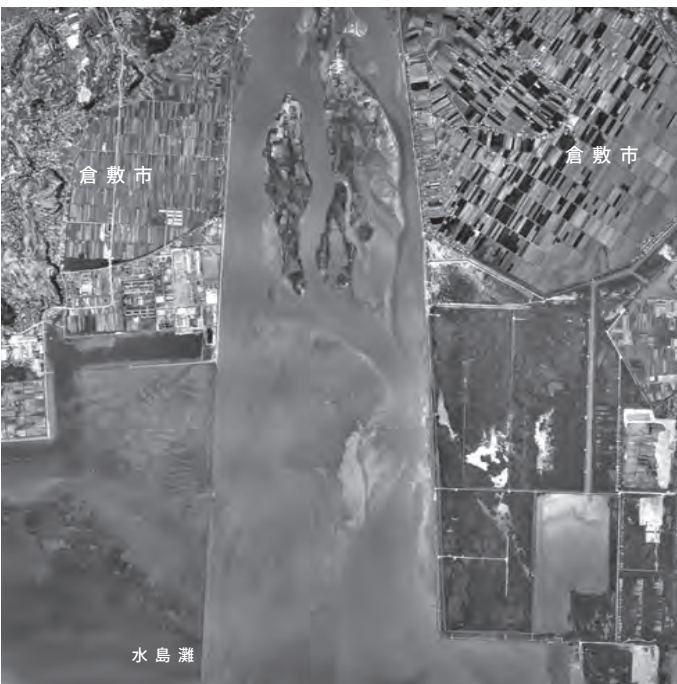


1961年7月撮影

旭川（あさひがわ）は、流域面積1,810km²、幹線流路延長142kmを有する。岡山県真庭市川上の朝鍋鷲ヶ山（標高1,081m）に源を発し、南流しながら途中、新庄川、備中川、宇甘川を合流し、岡山市の市街地東部を貫流し、児島湾に注いでいる。下流域はかつて干拓が盛んであった。現在は、市街化が進行している。



国土地理院 撮影 (1995年)



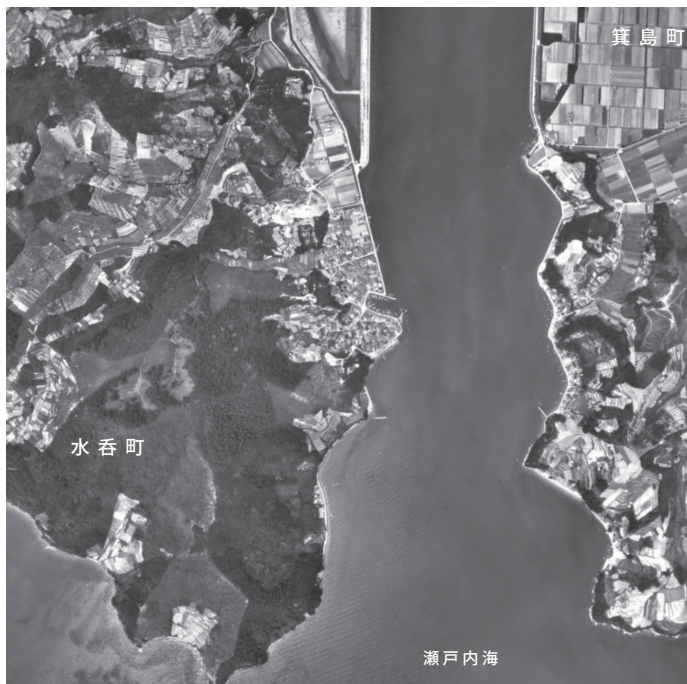
1963年6月撮影

高梁川 (たかはしがわ) は、流域面積 2,670km²、幹線流路延長 111km を有する。鳥取県境の明智峠 (標高 755m) に近い花見山 (標高 1,188m) の東麓 (新見市) を源流とし、途中西川、熊谷川、小坂部川等支川を合わせながら南流し、高梁市において広島県比婆郡の道後山から発する成羽川を合流する。さらに南下し倉敷市酒津において小田川を合わせ、倉敷平野を貫流し倉敷市で水島灘に注いでいる。河口部は埋立てが進み、工場、コンビナート等の土地利用が活発である。

芦田川 78

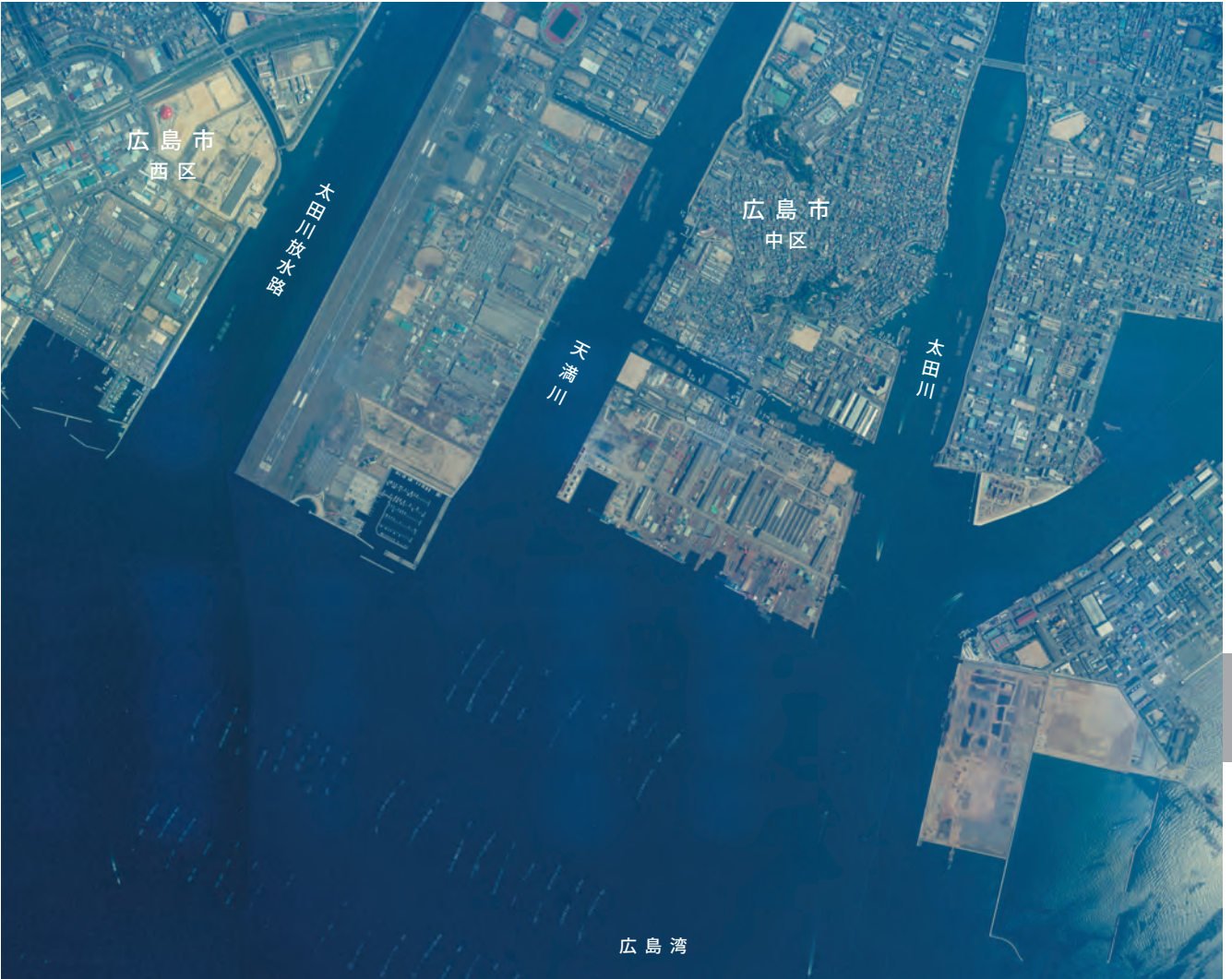


福山河川国道事務所 撮影



1961年5月撮影

芦田川（あしだがわ）は、流域面積 860km²、幹線流路延長 86km を有する。三原市大和町藏宗（標高 570m）に源を発し、世羅台地を貫流し、矢多田川、御調川等の支川を合わせ府中市に至り、その下流で神谷川、有地川、高屋川等を合わせ、神辺平野を流下し、さらに瀬戸川を合わせて福山市街の西を通って箕島町において瀬戸内海に注いでいる。河口部の芦田川河口堰は 1969 年に工事着手し、1981 年に竣工した。



国土地理院 撮影 (2001年)



1966年11月撮影

太田川（おおたがわ）は、流域面積 1,710km²、幹線流路延長 103km を有する。広島県廿日市市の冠山に源を発し、柴木川、筒賀川、滝山川、水内川等を合流し、広島市安佐北区可部付近で山峡の地を離れ、大毛寺川、三篠川、根谷川が合流する。高瀬堰下流で旧流路であった古川を分合流して広島市に至る。市内で太田川放水路と旧太田川（本川）に分流し、その後旧太田川は更に天満川、京橋川、元安川、猿猴川の計6本の川に分流し、広島デルタを形成しながら瀬戸内海に注いでいる。

小瀬川 80

中
国



瀬戸内海

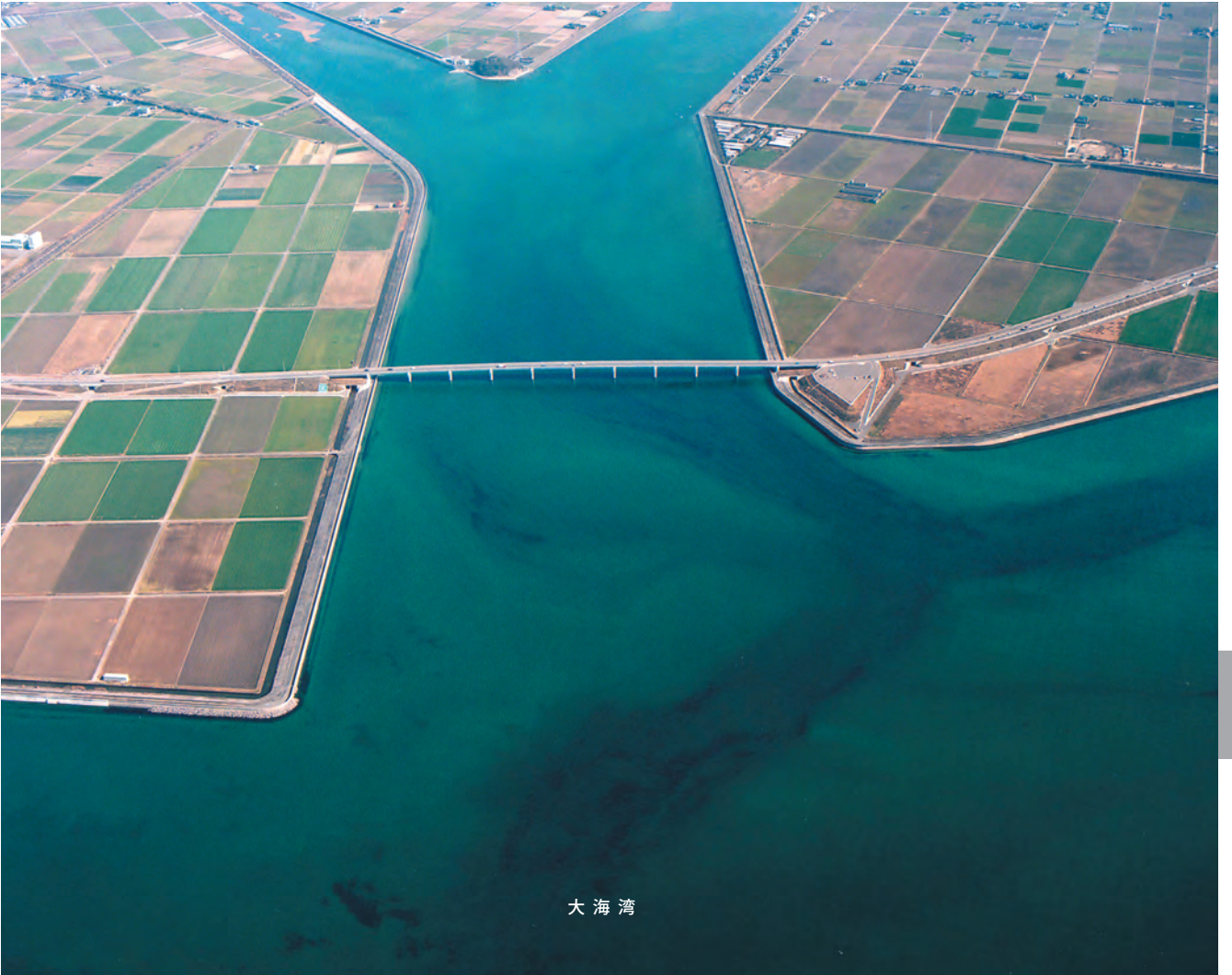
太田川河川事務所 撮影



瀬戸内海

1962年5月撮影

小瀬川（おぜがわ）は流域面積 340km²、幹線流路延長 59km を有する。廿日市市北西部の鬼ヶ城山（標高 1,031m）に源を発し、途中多くの溪流を合わせながら、廿日市市佐伯町市野付近から山口県境を南流し、途中渡ノ瀬川を合流し、弥栄ダムを経て、広島県大竹市および山口県和木町で瀬戸内海に注いでいる。



大海湾

山口河川国道事務所 撮影



1962年5月撮影

佐波川（さばがわ）は、流域面積460km²、幹線流路延長56kmを有する。山口県と島根県境に位置する周防山地の三ヶ峰（標高970m）に源を発し、ダム湖の大原湖を経て南流する。野谷川、三谷川、島地川等の支川を合わせ、中国自動車道と交差してからは南西流に転じ、防府市街北西部を流れ、河口より約1km上流左岸より横曾根川を合流し、大海湾に注いでいる。

